

お知らせ

日本化学会第 89 春季年会 (2009) のお知らせ

第 89 春季年会実行委員会

第 89 春季年会 (2009) は平成 21 年 3 月 27 日 (金) より 4 日間にわたり日本大学理工学部船橋キャンパスにて開催いたします。春季年会は化学に関する学術の進歩普及・産業の発展及び生活の向上を狙いとして、およそ化学という言葉が包括するあらゆる学問領域や分野からの研究者が一堂に会し、日頃の研究成果を発表する場であり、その討論を通じ学術交流を奨励・促進する場でもあります。例年多くの参加者が集うこの学会は、毎年 6,000 件にも及ぶ発表がなされ今回の第 89 春季年会においてもこれまで以上の研究発表の応募を期待するものであります。

本号では通常の研究発表の募集に先立ち、特別枠として立案されている、産学連携のための企画「アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)」、中長期間固定したテーマで継続実施しているシンポジウム「中長期テーマ」、化学分野の融合領域の創成を目的として第 2 次先端ウォッチング調査の報告を行う「イブニングセッション」を紹介いたします。

これに加え、3 時間の枠で自由にシンポジウムを企画していただく「特別企画」、会期中に日本滞在中の著名な外国人研究者による「特別講演」、次世代を担う若手研究者による「若い世代の特別講演会」の募集を行いますので奮ってご応募下さい。

なお、本年会のお知らせは本誌会告欄 (8・10・11・1・3 月号) でお伝えするとともに、最新情報をウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) にて随時公開していきますのでご覧下さい。

- 会 期** 平成 21 年 3 月 27 日 (金) ~ 30 日 (月)
- 会 場** 日本大学理工学部船橋キャンパス (千葉県船橋市習志野台)
- 実行委員長** 大倉一郎 (東京工業大学大学院生命理工学研究科)
- 内 容** アカデミック・プログラム (AP: 一般研究発表) (口頭・ポスター)
アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) (口頭・ポスター)
特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・総会・表彰式・懇親会・市民公開講座
中長期テーマ・アジア国際シンポジウム・イブニングセッション・若い世代の特別講演その他委員会企画ほか
- 重要な日程** 講演申込期間 平成 20 年 11 月 18 日 ~ 12 月 2 日 (詳細は本誌 10 月号)
予稿原稿提出期間 平成 21 年 1 月 15 日 ~ 27 日
参加予約期間 平成 21 年 2 月 2 日 ~ 27 日 (詳細は本誌 1 月号)
プログラム公開 平成 21 年 2 月 20 日 (予定)
予稿集発行日 平成 21 年 3 月 13 日 (予定)
- 問合せ先** 日本化学会 企画部 年会係
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: nenkai@chemistry.or.jp
URL: <http://www.csj.jp/nenkai/>

アカデミック・プログラム (AP: 一般研究発表) の講演申込者及び講演者は原則として本会会員に限ります (アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) の場合は非会員でも申込が可能です)。発表予定の方で未入会の方はお早めに当会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/kaiin/index.html>) よりご入会の手続きをお願いします。入会手続きに関してのお問合せは下記までお願いします。

- 問合せ先** 日本化学会 総務部 会員担当
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
電話(03)3292-6169 FAX(03)3292-6317
E-mail: member@chemistry.or.jp

1. アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)

春季年会では「化学の応用」、「実用化」、「事業化」を中心とする産学連携のための企画“アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)”を実施しています。当該分野のトップランナーによるオーガナイズ並びに基調・招待講演などにより、活発な討論が行われ会場は活気あふれたものになり、多くの参加者から好評をいただき、春季年会の新機軸として成功を取っております。

今年で 5 回目を迎える第 89 春季年会の ATP では、従来の「材料化学」「バイオケミカル」分野に加え、新たな分野「環境・新エネルギー」を新設し、「未来社会を創造するケミカルテクノロジー: 材料化学、環境・新エネルギー、バイオケミカル」というテーマで、昨年を越える魅力的なプログラムにするべく準備を進めております。産業界・大学からの積極的な参加を期待いたします。

最新情報はウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) で随

時公開していきますのでご覧下さい。

討論主題 『未来社会を創造するケミカルテクノロジー：
材料化学、環境・新エネルギー、バイオケミカル』

開催日 平成 21 年 3 月 27 日 (金)・28 日 (土) 材料化学、環境・新エネルギー

平成 21 年 3 月 29 日 (日)・30 日 (月) バイオケミカル

セッションテーマ

材料化学

1. 超ファインパターン形成技術
2. ディスプレイ用材料
3. 光学材料
4. プリント・ストレージ用材料
5. 未来材料

環境・新エネルギー

6. 環境
7. 新エネルギー

バイオケミカル

8. グリーンバイオ
9. フロンティアバイオ

ATP の特色は以下のとおりです。

- ・産業界の方々を中心に、企画、立案を行い、セッションオーガナイザー及び座長への積極的な参加をしていただくなど、従来の春季年会発表会場（アカデミック・プログラム）とは独立の目的、内容、基準により運営します。
- ・積極的に基調講演、招待講演、依頼講演を採用し、議論・意見交換の時間も十分に取入れています。
- ・ニーズ志向、アウトプット、製品名、実用例などを意識したプログラム編成、会場構成とします。
- ・既発表のもの、特許化・製品化したもの、知的財産戦略や特許化の関連より「化合物 A、B」による発表が可能です。
- ・大学発の実用化、ベンチャーへの取り組み、シーズ開発研究の発表も可能です。

2. 中長期テーマ

春季年会では、中・長期戦略に基づくシンポジウムを春季年会実行委員会と学術研究活性化委員会の合同企画として継続的に実施しております。第 89 春季年会では下記 6 件を実施予定です。

詳細は本誌 1 月号に掲載予定です。

1. ケミカルバイオロジー研究の最前線—新研究分野としての未来—

企画担当者：上村大輔（慶應大理工）

一昨年度、昨年度の本年会において、委員会企画及び第二次先端ウォッチングとしてケミカルバイオロジーに関する講演会が行われ、学会参加者の高い関心が示された。また、科学研究費補助金時限付き分科細目ケミカルバイオロジーも立ち上がり、研究分野としての位置づけにおいて重要な時期にさしかかっている。本講演会では当該分野の新展開を支える有機化学はもちろんのこと、その関連分野の基礎研究と生物・医学分野の応用研究を取り上げながら、医農

薬、生体関連化学、天然物化学等の各デビジョンを横断的に統合したケミカルバイオロジー研究の未来を議論したい。

2. 有機合成の最先端—第一遷移元素—触媒作用の新展開—

企画担当者：高井和彦（岡山大院自然科学）

貴金属化合物の高騰並びに「元素戦略」とも関連し、安価で毒性の少ない鉄、マンガン、ニッケル等の第一遷移元素（いわゆる汎用金属）が脚光を集め、これら遷移金属錯体を用いた新たな触媒反応開発が注目を集めている。本シンポジウムではこれら最先端の研究を行っている研究者を一堂に会し、現状と今後の展望について紹介する。

3. *In vivo* 生体分子科学の展開

企画担当者：民谷栄一（阪大院工）

生体の有する優れた分子機能（分子情報変換、エネルギー変換、物質変換など）を理解し、これらをバイオ分子システムとして制御し、あるいは人工的に再構成し、究極的には生物を越える機能をも実現すること、またそのためのサイエンスを構築することは、ケミストリーにとって 21 世紀における有用な課題の 1 つであろう。こうした研究を進める上では、生きた状態 (*in vivo*) での制御や解析が必須である。そのためには、生体分子プローブ、細胞操作、バイオイメージング、バイオチップ、バイオセンサーなど生体に負荷を与えない手法の研究やそのためのコンセプト提案が求められる。本シンポジウムでは、中長期テーマとして取り上げている“生体分子科学の展開（ナノバイオを含む）”の中で中核となる *in vivo* への展開として化学会が推進すべき研究テーマを以下に具体例を示し、関連する分野の研究者、技術者との熱心な研究討論を期待したい。

4. 革新的ハイブリッド物性を実現するナノ物質科学—金属錯体から次世代ナノハイブリッド材料への展開と展望—

企画担当者：山下正廣（東北大院理）

磁性、伝導性、光物性、誘電性、触媒などが複数競合・協奏したハイブリッド物性を実現するために、新規なナノ物質に焦点を当てながら、現状の問題点を明らかにするとともに今後の新展開について討論する。

5. 分子系包接環境における光化学

企画担当者：井上晴夫（首都大院都市環境）

分子—超分子系—分子集合系—包接環境における分子・超分子系・分子集合系—組織系—生命系という階層的ボトムアップ構造の観点からは、現代化学のフロンティアはすでに分子、分子系の化学を超えて、周囲の溶媒分子系を含めて、有機/無機格子系などの多様な包接環境における分子・超分子系・分子集合系の化学現象の解明とその機能発現の新領域に入りつつある。1) 様々な分子・超分子系・分子集合系を包接する微小環境の合成とキャラクターゼーション、2) 包接する微小環境との相互作用、3) 包接する微小環境における化学、4) 分子系及び包摂系としての機能発現、などが新領域における研究最前線を形成している。特に包接する微小環境における光化学は「機能発現」におけるフロンティアとしてその進展が著しい。例えば、有機/無機複合材料は、(1) 無機物単体あるいは有機物単体には見られない物性や機能を発現する、(2) 無機物と有機物とによる相乗的な長所発現が期待できる、(3) 有機分子、分

子系を包接する格子環境として無機物は特異な環境を提供する。などの理由で近年大きな注目を集めている。本シンポジウムでは、「有機化学」、「無機化学」、「光化学」を横断する新領域の現状と将来を俯瞰する。

6. 分子制御材料テクトニクスの開拓

企画担当者：河本邦仁（名大院工）

材料化学構築学（テクトニクス）の開拓にあたって見習うべき手本となるのが自然界における“ものづくり”の姿である。バイオミネラルの構造やその自己組織的形成過程を做うことによって、低環境負荷・省エネルギーで、精密な階層構造を有する高機能材料を合成する分子制御新機能材料創製は、近年非常に精力的に研究が行われている。本シンポジウムでは、有機分子や無機成分からなる材料構築の基本単位となるテクトンが、相互に作用しあいながら精緻な機能構造を自己組織的に形成していく新しい分子制御材料テクトニクスに関する討論を行う。機能構造を精密に設計した合成有機分子あるいは生体分子誘導体の持つ特異的作用に着目し、その特性を十分に生かした基本単位となるテクトンをデザインすることで、機能性材料の精密な3D構造制御とその階層的な構造に由来する量子・化学機能等の発現の可能性を展望する。

3. 第2次先端ウォッチング イブニングセッション

日本化学会では複数の化学関連領域にインパクトがあり、新領域への発展が期待される「第2次先端ウォッチング調査」を実施しており、その調査報告を行うイブニングセッションを春季年会で実施しております。第89春季年会では下記2テーマを予定しております。

詳細は本誌1月号に掲載予定です。

1. 生合成工学—複雑な構造を持つ生物活性天然物の大量供給を目指して
2. π 電子科学：可能性の追求と展望

4. 「特別企画」企画案の募集

毎年、春季年会のプログラムに「特別企画」が組み込まれ好評を得ておりますが、本年会でも会員の皆様より企画案を下記要項により募集いたします。

特別企画は、3時間の枠内（9時30分～12時30分または13時30分～16時30分）で自由に企画いただけます。特別企画は原則として初日と最終日に開催することとなり、開催日及び時間帯は実行委員会が決定いたします。企画内容は下記のいずれかを満たす企画とします。なお、実行委員会では、講演者、座長の方への謝礼、旅費等のお支払いはしていません。あらかじめお含み置き下さい。

1. 産・官・学の意見交換を積極的に行うための企画
2. 新分野・新領域の開拓に向けての企画で産業界からの参加が見込まれるもの
3. 他分野への発展を図る企画や、学際領域を積極的に開拓するための企画
4. 研究最先端のトピックスをまとめて情報提供するための企画

応募いただきました企画案は、講演企画小委員会及び実行委員会にて検討し、10件程度を採択させていただきます

が、企画案によっては修正をお願いする場合があります。採択された特別企画につきましては、後日最終企画書を再提出いただきます。

応募の際には実行委員会企画及びアドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）のテーマと重複しないようにご注意ください。

開催日 第89春季年会会期の初日もしくは最終日

開催時間 9時30分～12時30分もしくは13時30分～16時30分

応募方法 次の項目のすべてについてご記入の上、E-mailにてご応募下さい。

1. 企画タイトル（和文/英文/略称）
2. 趣旨文（約300字）
3. プログラム案もしくは講演者案
4. 開催予定日（平成21年3月27日及び30日）のうち、都合の悪い時間帯をお知らせ下さい。
5. 予想聴講者数
6. 予稿集掲載希望分冊
7. 企画責任者氏名、所属（官学界、産業界各1名）
8. 応募者氏名及び連絡先（勤務先所在地、電話番号、FAX番号、E-mail）

締切 平成20年9月25日（木）

応募先 日本化学会 企画部 年会係

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp 電話(03)3292-6163

5. 「特別講演」候補者の推薦について

本年会会期中に日本に滞在され、これを機にご講演（講演時間50分）願える外国人候補者の推薦をお願いいたします。ご推薦いただきました候補者については、講演企画小委員会及び実行委員会にて検討し、採択させていただきます。なお、実行委員会では、薄謝をお支払いするのみで、渡航費用、国内滞在費等のお支払い及び接待はいたしかねますので、あらかじめお含み置き下さい。

講演日時 第89春季年会会期中（採択時に決定させていただきます）

講演時間 50分

推薦方法 次の項目のすべてについてご記入の上、E-mailにてご応募下さい。

1. 講演候補者名・所属・役職・国名・演題（仮題）
2. 専門（なるべく詳しく）及び推薦理由
3. 略歴（年齢もお書き下さい）
4. 講演希望日（会期中で、半日単位、第3希望までお知らせ下さい。なおご希望にそえない場合もありますのであらかじめご了承下さい。例：3月27日午後）
5. 講演会場希望（特別講演用会場もしくは一般会場）
6. 推薦者氏名及び連絡先（勤務先所在地、電話番号、FAX番号、E-mail）

締切 平成20年9月25日（木）※以後、11月中旬までは事務局へご相談下さい。

推薦先 日本化学会 企画部 年会係

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
E-mail: nenkai@chemistry.or.jp 電話(03)3292-6163

6. 第23回若い世代の特別講演会講演者募集

化学及び化学技術の将来は、若い世代の双肩にかかっております。本会では毎年年会の際に若い世代の研究者を励まし、次代の化学及び化学技術をさらに活性化するために標記講演会を企画し、意欲的に研究を行っている若手研究者に“特別講演”の機会を設けております。この講演に対しては、本会会長から特別講演証も贈られ、また、化工誌に執筆の機会がありますので、奮ってご応募下さいますようご案内いたします。

会期 平成21年3月27日(金)～30日(月)〔第89春季年会会期〕

会場 第89春季年会会場〔日本大学理工学部船橋キャンパス〕

講演件数 選考の上、20件以内(講演時間:25分+討論5分)

応募資格 本会に1年以上在籍する40歳未満(平成20年

4月1日現在)の個人会員。ただし、本会進歩賞を受賞している者の申込資格はない。

応募方法 応募用紙を春季年会ウェブサイトより入手し、下記項目を記入の上、事務局宛送付のこと。

1. 講演申込書(①講演部門、②講演題目、③氏名、④生年月日、⑤会員番号、⑥所属、⑦連絡先、⑧略歴)
2. 講演内容(図表を含め2枚)
3. 講演に直接関連した発表論文リスト(学会発表、特許等を含み10件以内)
4. 申請趣旨(研究の意義と独創性を400字以内にまとめたもの)

講演部門 1. 物理化学、2. 無機・分析化学、3. 有機化学、4. 材料化学・高分子化学、5. 天然物化学・生体関連化学(医農薬を含む)、6. 複合領域(情報・計算機化学、地球化学、環境化学、資源・エネルギーを含む)

締切 平成20年9月25日(木)

応募先 日本化学会 企画部 年会係

〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp 電話(03)3292-6163